

社会総合科学科各コース 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会総合科学科

国際教養コース

国際教養コースは、異文化および自文化を理解し多面的な思考力を可能にする教養、広く世界に情報発信ができ、グローバル化がもたらす地域社会の諸課題に主体的に取り組むためのコミュニケーション能力、海外留学・海外研修などの社会体験、さらにはキャンパス内外での留学生との交流を通して地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる実践的なグローバル人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修し、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を身につけるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を修得する。また、自然科学系の科目やイノベーション科目などの履修を通じて科学的思考や文理融合の視点を養う。
2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得するとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上をめざす。
3. 1・2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につける。また、キャリア教育科目を通じて、社会人としての将来設計に必要な知見や能力を修得する。
4. 2年次には、「コース入門科目」により、コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ぶ。
5. 2年次以降、専門分野を中心として「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修し、グローバル化する現代社会の諸問題の解決に向けた幅広い知識の修得をめざす。また、外国語教育（ACEプログラムなど）や体験プログラム、および短期・長期の留学や国際交流体験を通じて、実践的な語学力やコミュニケーション能力、異文化対応能力を培う。
6. 「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により、各自の関心に応じて知識・技能の幅を広げるとともに、地域・国際課題の解決にかかる総合的な視点を身につける。
7. 4年次に「卒業研究」に着手し、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

心身健康コース

心身健康コースでは、人間の心と身体の働きに着目して、人間科学の諸領域から QOL (Quality of Life) の向上を追求できる人材の育成を目的としている。この目的のもと、本コースでは、複雑化する社会の健康課題を解決するために、自ら考え行動する人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修し、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得する。また、自然科学系の科目やイノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修する。
2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や

情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得するとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上をめざす。

3. 1・2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につける。また、キャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につける。
4. 2年次には、「コース入門科目」により、コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ぶ。
5. 2年次以降、専門分野の「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修し、心理学とスポーツ健康科学を融合させた形で、地域と連携した実習系科目も踏まえ、健康課題の解決に向けた基礎的知識の修得と実践力の養成を図る。
6. 「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により、各自の関心に応じて知識・技能の幅を広げるとともに、健康課題の解決にかかる総合的な視点を身につける。
7. 4年次に「卒業研究」に着手し、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

地域デザインコース

地域デザインコースでは、公共政策・地域社会・地域文化・情報デザイン・芸術デザインなどの専門知識や技能を分野横断的に履修し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる実践人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修し、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得する。また、自然科学系の科目やイノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修する。
2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得するとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上をめざす。
3. 1・2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につける。また、キャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につける。
4. 2年次には、「コース入門科目」により、コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ぶ。
5. 2年次以降、専門分野を中心として「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修し、基礎力・実践力を養っていく。その際、公共政策・地域社会・地域文化・情報デザイン・芸術デザインのいずれかの分野を中心に学修を深め、地域・社会課題の解決に向けた基礎的知識・技能の修得と実践力の養成を図る。
6. 「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により、各自の関心に応じて知識・技能の幅を広げるとともに、地域・社会課題の解決にかかる総合的な視点を身につける。
7. 4年次に「卒業研究」に着手し、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。